

# 協同的な活動に関する一考察

## —「劇遊び」を通じた人的環境としての保育者の役割に着目して—

Research on collaborative activities :  
Focusing on the assistance of childcare workers as a human environment through "Dramaplay"

Keyword : 協同的な活動、保育者の役割、劇遊び、保育者養成校の学生

松本佳代子、綾野鈴子  
Kayoko MATSUMOTO, Suzuko AYANO

### 1. 問題と目的

保育において子どもの育ちに必要とされる活動はいくつかあり、協同的な活動もそのひとつとされている。それらの活動は、七夕まつりや発表会、卒業制作など園行事に向けての活動だけでなく日々の保育や生活、遊びの中でも取り入れられている。例えば自由遊びの中でいつもの友だちとやり取りをしながら遊びに必要なモノを作っていく。〇〇が作りたいが思い描いたモノが出来ない時、子ども達同士、知恵を出し合い工夫や協力をしながら遊びに必要なものを作り出す過程の中に、自然と協同的な活動が生じていて保育者が期待する学びが経験できている。ではなぜあえて保育時間中に協同的な活動を意図的に設定するのか。保育の中で協同的な活動に取り組むグループは、仲良しの友だちだけでなく、日ごろ接点の少ない友だちとの協同的な活動の中で、自己を発揮し、他者の思いや考えを共有する過程があり、葛藤場面がより多く存在すると考えられている。この活動からの学びは、集団を作り出す友だちや保育者という他者の存在なしに成立しない。協同的な活動について、福元 (2014) は「小学校入学前の5歳児を主たる対象として、『幼児どうしが教師の援助の下で共通の目的・挑戦的な課題など一つ

の目標を作り出し、協力して解決していく活動』と規定した。齋藤・無藤 (2009) は「主に5歳児で保育者の援助のもと子ども同士が共通の目標を作り出し協力しながら継続して取り組んでいく活動」と定義した。保木井は「友だちと楽しく活動する中で、共通の目的を見出し、工夫したり協力したりなどする」という項目に基づく保育活動を指すと定義していることから協同的な活動は「人間関係が深まり学び合いが可能となる時期」である5歳児で多く取り入れられており、5歳児の発達という観点から捉えても大切な学びの要素であるし、今後社会の一員として歩みを進める上でも不可欠な要素であると考ええる。井口・井上ら (2019) は、学生時代に身に付けておくことよきこととして、「教材研究力等、保育者としての専門性を高めておくこと、挨拶、積極性等、基本的な姿勢の他、他者と関わる力や困難を乗り越える力を備えておくこと」を挙げている。他者と関わる力や困難を乗り越える力は、大学においても獲得が求められており、幼児期から継続して獲得を求められている要素であることがわかる。

では、幼稚園や保育所で主に5歳児の活動として取り入れられている「協同的な活動」を、4年制大学の3年生はどのように捉えているのか。将来、保育者として子どもの育ちに影響を

及ぼす存在である保育者養成校で学ぶ学生が授業の一環として協同的な活動を経験する活動に参加し、「劇遊び」の活動経験を通して、子どもがどのようなことを学び経験しているか知ることは、学生自身が子どもを理解する上で有益な経験となると考える。また体験を通して、保育について考える機会になることは保育・幼児教育を深めていくきっかけになっていくと考えている。劇遊びについて、利根川(2016)は「共通の目標を作り出したりイメージを共有したりする過程で子ども同士の対話」が生じるとし、他者と異なったすり合わせが必要とした。このすり合わせは価値観のすり合わせであり、この過程に葛藤が生じる機会が多く存在し、この葛藤体験が学びや気づきのきっかけとなる。

そこで本稿は、保育者養成校で学ぶ学生は協同的な活動、中でも劇遊びの実践活動を通して、子どもの学びや経験をどのように捉えているのか。保育者の役割に着目して傾向を探ることを目的とした。

## 2. 研究方法

### 1) 研究対象者

本研究は、協同的な活動と学びについて大学生はどのように捉えているかについて調査することを目的としている為、保育者養成校に在籍する大学生を対象とした。調査期間は、20XX年2月。本研究が、対象学生にアンケート調査の目的と協力の依頼、およびデータの取り扱いについて説明を行い研究協力者として同意の上でアンケート調査を実施した。記入方法は、無記名自記式で行った。回収は137名、回収率は87.8%であった。

### 2) 対象者の基本属性

- ①性別：女性：137名 (100%)
- ②所属：4年制大学の3年在籍の学生。保育士資格を取得する学生は2回の実習が終了、幼稚園教諭免許状を希望する学生は2回の実習が終了している。

### 3) 実施手続き

授業の一環として学生自身が参加した「劇遊び」が終了した直後に協同的な活動について本アンケートを実施した。なお、「劇遊び」は全5回の授業であり、授業内容は第1回から第3回まで台本作成、小道具の準備、演出方法の検討、リハーサルなど学生主体となり発表に向けての準備をした。毎回ワークシートによる振り返りを行い回を重ねるうちに相手のことがわかるようになる。また自身も相手との思いや考え方の相違に気付く機会となった。第4回、第5回はクラス内発表、全体発表を実施した。

### 4) 質問紙の内容

保育者養成校に在籍する4年生が協同的な活動と学びをどのように捉えているのかを知るために以下5項目の質問項目を自由記述で問うた。Q1では、「『子どもにとっての遊び』をどのように考えているか」。Q2では「『子どもの遊び』における保育者の役割について」。Q3では「『協同的な活動や遊び』をどのように考えているか」。Q4は、「『協同的な活動や遊び』を通して子どもたちはどのようなことを楽しみ、学んでいると思うか」。Q5では「『協同的な活動や学び』における保育者の役割について大切だと思うこと」。

### 5) 分析方法

Q1からQ5の項目の自由記述から、協同的な活動や学びに対する見方および考え方、保育者の役割および援助に関する内容を抽出しそれらを整理した。テキストの分析テーマに関する箇所に着目して類似した部分(カテゴリー)を作成し、具体例として集めた。次にカテゴリーごとに1枚のシートに整理しそれぞれの特徴をまとめ質的に分析を行った。分析単位は、1センテンスを最小単位とした。一人の回答が記述した自由記述において、同じカテゴリーが何度出現してもそのカテゴリーの出現度数は1と数えた。実際の作業で不一致が生じた場合は、協

議の上不一致を修正した。なお出現度数の算出、 $X^2$ 検定など分析においては、統計ソフトSPSS Statistics (ver24, 0) を用いた。

### 3. 結果および考察

#### 1) Q1 「子どもにとっての遊びの捉え方」

保育者養成校に在籍する学生は、「子どもにとっての遊びをどのように考えているか」という問いに対して自由記述を求めた。自由記述の内容を質的に分析し、4つのカテゴリー「子どもの日常」「自己表現」「社会性の獲得」「人間形成の基盤」に分類した。(表1) 子どもにとって遊びは日常であり、生活の全てであると考えている「子どもの日常」、子ども自身が自己を表現する活動そのものが遊びだと考える「自己表現」、子どもは遊びを通して人間関係や規範意識を学んでいると考える「社会性の獲得」、子どもは遊びを通して様々な体験をし経験することを通して視野の広がりや力の安定が期待できると考える「人間形成の基盤」の4つのカテゴリーに分類した結果、全体の出現度数として

「自己表現 (38.9%)」、「社会性の獲得 (22.6%)」、「人間形成の基盤 (22.1%)」の順に多く表出していた。

子どもの遊びについて、自己を表現する活動そのものが遊びであると考えてる学生の割合は、全体の約4割に及んでいる。その背景には、保育所保育指針および幼稚園教育要領の「表現」に関する「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」と記載があることも影響していると考えられる。自分を表現すること「表現」は、人が毎日の生活の中で気持ちを表す行為であり、表現することによって伝えることができる。自己表現は、自己実現の行為であり、遊びは子ども自身が自己を表現するための手段や道具であると捉えていることがわかる。また子どもが自分らしく自己を発揮し表現できる環境を保障したいという実習生の思いも見えてくる。次に多い「社会性の獲得」は、遊びを通して子どもは主体的に、のびのびと自由に表現をすることを通して友だちや周囲の大

Q1 子どもにとっての遊びをどのように考えているか =133

表1

カテゴリー	キーワード	記述例	度数	%
子どもの日常	生活の全て、 生活の一部	・生活そのもの。 ・生活の一部。 ・子どもの日常である。 ・生きる上で必要なこと。	34	16.3
自己表現	自己表現、自己実現 表現そのもの、 ツール、手段、道具、 自由、内発的動機	・楽しくて自由で面白いものだと考えます。 ・子どもが興味関心のあることを思いきりできること。 ・自分を表現できる場。・自分の想像を表現する。 ・遊びは自己発揮をする場。・たくさんのことを学ぶ手段。 ・子どもがイメージしたことを実現させる。・子どもが心を動かしていれば遊びだと思う。	81	38.9
社会性の獲得	人間関係、主体性、 規範意識、 知識・技能の体得	・子ども自身が主体的に遊ぶことができるもの。 ・子どもにとって遊びとは社会性を身に付けるために必要である。・楽しく学び知識や技能を身に付けること ・楽しみながら人との関わり方を学んでいくもの。	47	22.6
人間形成の基盤	経験、力の安定、 世界の広がり、 心の成長	・様々な力、人間性等を育むことは出来る。 ・多くのことを経験できる場。・心と体の成長にとって必要不可欠なもの。 ・人間形成の基盤を子どもは作っている。また心身の発達が見込める。	46	22.1

人とのかかわりが社会性や人間性を育むきっかけとなりこのかかわりによって心が動く経験を通して人間形成の基盤が育ち始めると考えていることがわかった。

## 2) Q 2 「遊びにおける保育者の役割」

「子どもの遊びにおける保育者の役割についてあなたの考えを教えてください」という問いに対して自由記述の内容を質的に分析し4つのカテゴリー「子ども理解」「直接的な援助」「子どもの発達を尊重」「環境構成」に分類した。(表2)

子どもの気持ちに共感すること、子どもの思いを受け止めること、見守ることを保育者の役割と考える「子ども理解」、子どもに声をかける、手を差し伸べる、子どもに助言をするなど直接的に子どもに援助をすることを保育者の役割と考える「直接的な援助」、子どもの主体性を大切にする、人間関係構築を援助する対人関係を重視する、異年齢の子どもとのかかわりを大切にするなど子どもの発達を尊重することを保育

者の役割と考える「子どもの発達を尊重」、子どもたちに適切な環境を用意する、環境を整える、安心安全な環境を保障するなど子どもの興味・関心に沿った環境を構成することを保育者の役割と考える「環境構成」の4つのカテゴリーに分類した結果、全体の出現度数として「直接的な援助 (38.8%)」「環境構成 (27.2%)」「子ども理解 (17.7%)」の順に多く表出していた。子どもの遊びにおける保育者の役割は、直接的な援助である考える学生は、全体の約4割に及んでいる。助言をする、声をかける、手を差し伸べるなどの直接的な援助は、学生にとって目に見える、また耳に聞こえる、わかりやすい援助である。直接、子どもたちとかかわりながら行う援助は、学生自身も実践する機会が多くあると考えられる。また関わっていると実感できる援助内容であると考えられることから多く表出していると考えられる。次に多く表出している「環境構成」について、幼稚園教育要領に「幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と記述があるように保育

Q 2 子どもの遊びにおける保育者の役割についてあなたの考え =133

表2

大カテゴリー	キーワード	記述例	度数	%
子ども理解	共感、認める、見守る、受け止める	・自由な表現を見守る。・子どものやりたい気持ちを尊重し援助する。 ・子どものやりたいを支える、認める、励ます。 ・一人ひとりに合わせた援助。 ・気持ちや思いを汲み取って援助する。	41	17.7
直接的な援助	手助け、助言、声をかける、手を差し伸べる	・子どもが遊びの中で学べるように手を差し伸べる。 ・どのようにしたら子どもの考えた遊びを実現できるのか、助言をしながら子ども同士で話し合い必要最低限のサポートをする。 ・子どもにあった遊びを提案する。	90	38.8
子どもの発達を尊重	主体性、自己発揮、自己挑戦、人間関係	・子どもが楽しいと感じられるよう援助しつつ子どもの主体性を育むこと。 ・自己を発揮できるよう援助する。 ・年齢にあった支援を行う。	38	16.4
環境構成	環境を整える、用意する、安全な環境を保障	・子どもが安心して遊び楽しさを得ることが出来る環境を保障すること。 ・子どもの遊びが広がるような環境づくりをする。 ・子どもがやりたいと感じた遊びを伸びと出来るような環境をつくること。	63	27.2

は環境を通して行われる日々の営みであり、子どもたちは環境を通して様々な事を学んでいく。子どもたちの遊びが豊かにそして発展するように願いを込めて保育環境を整える、また用意する等、保育者が保育において子どもの遊びや子どもの発達に見通しを持ち環境を整える行為そのものである。用意をする、また準備をする行為は実際に環境を整えるための援助でありその場面を実習等を通して目にもすることも出来る為多く表出したと考えられる。

### 3) Q 3 「協同的な活動や遊びの捉え方」

「協同的な活動や遊びをどのように考えていますか」という問いに対して自由記述の内容を質的に分析し、6つのカテゴリー「子ども自身の学び」「社会性の獲得」「結果重視」「他者との関係性」「過程重視」「イメージの共有」に分類した。(表3) 自分の思いや考えを大切にす

ること、一人ひとりが楽しみながら活動することと考える「自分自身の学び」、協同的な活動や遊びを通してコミュニケーション能力や協調性を育むなど成長する上で必要なことを学ぶ場だと考える「社会性の獲得」、様々な経験から達成感や成功体験を味わうことのできる活動や遊びと考える「結果重視」、他児との関係が生まれ、また深まるもの、かかわりを楽しみ友だちの思いを知ることと考える「他者との関係性」、同じ目的を達成するために他児と協力しあい困難を乗り越えひとつの活動や遊びを作り上げていく活動や遊びと考える「過程重視」に分類した結果、全体の出現度数として、「他者との関係性 (47.5%)」、「社会性の獲得 (17.8%)」、「過程重視 (16.3%)」が多く表出していた。協同的な活動や遊びについて「他者との関係性」を楽しみ学んでいると考えている学生は全体の約5割に及ぶことがわかった。いつもの“あう

Q 3 協同的な活動や遊びをどのように考えているか =133

表3

大カテゴリー	小カテゴリー キーワード	記述例	度数	%
子ども自身の学び	自身の学び	・子ども自身がどうしたいか考えて行う遊び。 ・じぶんを見つめ直すきっかけにもなる。 ・自分の考えを相手に伝える場。	27	13.4
社会性の獲得	協調性、社会性、 コミュニケーション 能力の向上、	・協調性を育む・社会性を育む。・社会性を育む為に必要なこと。 ・社会に出る上で大切になるスキルを学べる。 ・コミュニケーション能力の向上。	36	17.8
結果重視	成功体験、達成感	・友だちと一緒に同じ目的を達成するためにする活動や遊びのこと。 ・みんなでやる。成功体験が味わえる。 ・後々何かを成し遂げる力になる。 ・子どもが協力して活動したり達成感を味わえる遊び。	10	5
他者との関係	チームワーク、 対人関係、 関係を形成	・友だちと一緒に同じ目的を達成するためにする活動や遊びのこと。 ・子どもの人間関係や心を深めるきっかけ。 ・子ども同士の仲間意識が芽生えるものだと思う。 ・他児の思いを知るきっかけとなる出来事。・人間関係の基礎を形成する。	96	47.5
過程を重視	イメージの共有、 過程を楽しむ。 目的意識、	・みんなでひとつのことを目指して活動すること。 ・友だちとかかわりあうことで様々な困難やトラブルを乗り越え、1つの活動や遊びを作り上げていける。 ・同じ目的を持ってあそび楽しさを共有する。	33	16.3

んの呼吸”で遊ぶことが出来る仲間との活動や遊びとは異なる、同じ目標に向かって仲間と協力し取り組む、目標を達成するための努力を共に払う他者という存在が協同的な活動における設定されたグループの友だちである。いつもの仲間ではない存在は知っていてもどんな友だちかわからない、同じクラスにいながら関係性を築くことが出来ていない子ども同士が同じ目的に向かいともに取り組む過程の中に気づきや気づきのきっかけを得る機会が多いのが他者とのかわり「他者との関係性」であり、気づきやきっかけから心身の成長を促し人間関係の基礎を形成する一端を担っていると学生は捉えていることがわかる。平成29年に告示された保育所保育指針にも幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿のうち、ウ「協同性」、エ「道徳性・規範意識の芽生え」、オ「社会生活との関わり」ケ「言葉による伝えあい」は人との関わりに関する項目で友だちや周囲の人との関わりを通して対人関係の基本を幼児期に育てたい項目として挙げられていることから多く表出したことと考える。また「結果重視」と「過程重視」の2つのカテゴリについては、相反するカテゴリであるが、遊びにおける成果を重視した考えをもつ学生は全体の5%に留まり、遊びにおける目的に向かい取り組む過程を重視した考えをもつ学生は16.3%であった。協同的な活動や遊びを学生は目的に向かい他者とやりとりをしながら取り組む過程そのものに意味があり、取り組む過程の中に学びや楽しみがあると考えていることがわかった。

#### 4) Q 4「協同的な活動を通した子どもの学び・楽しみ」

「協同的な活動や遊びを通して子どもたちはどのようなことを楽しみ学んでいると思いますか」という問いに対して自由記述の内容を質的に分析し、8つのカテゴリ「他者受容」「自己表現」「社会性の獲得」「遊びそのものを楽しむ」「協調性」「過程重視」「結果重視」「知識・

技能の獲得」に分類した。

自分とは意見が異なる内容も一度受け入れること、他者の思いや気持ちを知ること学んでいると考える「他者受容」、自分の思いや考えを表現することを楽しんでいると考える「自己表現」、子どもは遊びを通して人間関係や規範意識を学んでいると考える「社会性の獲得」、結果的に遊ぶこと自体を楽しんでいると考える「遊びそのものを楽しむ」、同じ目的をもち活動をする中でコミュニケーションを取り協調性が育まれると考える「協調性」、同じ目的を達成するために他児と協力しあい困難を乗り越えひとつの活動や遊びを作り上げていく活動や遊びと考える「過程重視」、様々な経験から達成感や成功体験を味わうことのできる活動や遊びと考える「結果重視」、活動や遊びを通して子どもは知識や技術を獲得していると考える「知識や技能の獲得」の8つのカテゴリに分類した結果、全体の出現度数として、「協調性 (38.6%)」「過程重視 (24.6%)」「他者受容 (12.9%)」の順に多く表出していた。協同的な活動や遊びを通して子どもたちは協調性を学んでいると思う学生は全体の3割強に及んでいた。協調性とは保育所保育指針に幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿のウの「協調性」の項目である。ここには「友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。」と社会生活を送る為には他者との関係性の構築は大切である。ここにある思いを共有する、共通の目標の実現に向けて考えたり工夫したり協力するという行為は、他者の存在があってはじめて味わうことのできる学びである。家庭とは異なる幼稚園や保育所という集団生活の中で自分の意見を相手に伝える、また相手にも思いがあって同じ目標に向かって取り組んでいるが同じ意見ではない場合もあることを知る。その上で相手を受容したり、意見を共有したり調整する機会が協同的な活動からの学びとなっていることを理解

協同的な活動に関する一考察

Q 4 協同的な活動や遊びを通して子どもたちはどのようなことを楽しみ学んでいるのか =133

表 4

カテゴリー	キーワード	記述例	度数	%
他者受容	相手の気持ちや 思いを知る、 他児を 受け入れる。	・自分とは意見が違う内容も受け入れてみると楽しいこと もあると知る。 ・人と笑い合うことの楽しさや人の温かさはもちろん気 持ちがぶつかったとき相手の気持ちを知ることができる。	36	12.9
自己表現	自己表現、自己実現、 自己承認	・自分の意見を相手に伝える方法を学んでいる。 ・自分の考えが認められる嬉しさを感じる。 ・自分の思いや考えを表現していく充実感。	16	5.7
社会性の獲得	社会性の獲得、規範 意識	・集団での活動や遊びの中で他者と遊ぶことを楽しみ社 会性を学んでいる。 ・友だちと触れ合うことを楽しんだりルールを学んでい る。	18	6.4
遊びそのものを 楽しむ	遊びを楽しむ	・遊ぶことそれ自体を楽しんでいる。	4	1.4
協調性	友だちとのやりとり や共有する楽しさ	・みんなで同じ活動をすることでコミュニケーションを 取り協調性が育まれると思う。 ・友だちとイメージを共有する楽しさ。 ・みんなと一緒にいることを楽しんでいる。 ・友だちとともに活動する楽しさを感じる。協力すれば 世界や遊びの幅を広げられることを知る。	108	38.6
過程重視	充実感、役割分担、 過程重視、葛藤感、 折り合い	・人の意見を取り入れたり葛藤を乗り越え折り合いをつ けたりすることが出来ると思う。 ・自分の思い通りにならないことを学ぶ。 ・自分にはない考えの活動や遊びを知る。	69	24.6
結果重視	達成感、成功体験	・友だちとのかかわりや出来たという達成感から次にや ることを楽しみにする。 ・皆で出来た時の達成感を共有する。 ・一緒に作れる喜びや達成感。 ・一人でできないことの達成感。	19	6.8
知識・技能の獲得	数字、言葉の獲得	・自分とは異なる意見を持っている人と活動することで 新たな知識を増やしている。 ・知識や技術を身に付けることが出来る。 ・新たな遊びを知って、あた新たな遊び方を見つけて遊 ぶこと。	10	3.6

282

していることがわかった。

5) Q 5 「協同的な活動における保育者の役割」

「協同的な活動や学びにおける保育者の役割について大切だと思うことを教えて下さい」という問いに対して自由記述の内容を質的に分析し4つのカテゴリー「子ども理解」「直接的な援助」「子どもの発達を尊重」「環境構成」に分類した。子どもの気持ちに共感すること、子どもの思いを受け止めること、見守ることを保育

者の役割と考える「子ども理解」、子どもに声をかける、手を差し伸べる、子どもに助言をするなど直接的に子どもに援助をすることを保育者の役割と考える「直接的な援助」、子どもの主体的を大切にする、人間関係構築を援助する、異年齢の子どもとのかかわりを大切にするなど子どもの発達を尊重することを保育者の役割と考える「子どもの発達を尊重」、子どもたちに適切な環境を用意する、環境を整える、安心安全な環境を保障するなど子どもの興味・関心に

沿った環境を構成することを保育者の役割と考える「環境構成」の4つのカテゴリーに分類した結果、全体の出現度数として「直接的な援助(37.7%)」「子ども理解(28.7%)」「子どもの発達を尊重(27.4%)」の順に多く表出していた。

協同的な活動における保育者の役割について、約4割の学生は、「直接的な援助」について挙げている。Q2の遊びにおける保育者の役割についてどのように考えているかについての問いも同様に直接的な援助についての表出率が1番高く約4割の学生が挙げている。4年制大学の4年生は、卒業年次となり実習は1人平均5回、週数にすると9週間～10週間、約2か月半の実習を経験している計算になる。この実習という2か月半の保育実践を通してよく見ることが出来、直接的な援助を間近で経験し、それを実習生が実践する機会があると想定できる。子どもに声をかける、助言をする、手助け

をする等のかかわりを通してるのがこの直接的な援助だと考える。直接的な援助は、子どもに声をかける、助言する、手助けをする等の実践を通じた援助をきっかけに学生自身の心が動いていること、そして自身の直接的なかかわりを通して子どもの心が動いたことが実感できるもの直接的な援助の特徴だと考える。自身の心が動いたこと、また子どもの心が動いたことを実感できたことが学生の心に残り、子どもの成長の一端を担うことが出来たという達成感を味わうことにつながると考えた。

#### 4. まとめ

養成校で学ぶ学生は、「協同的な活動」ここでは劇遊びや学びについて、どのように捉えているのか、アンケート記述を手掛かりに分析を進めたところ、保育者の役割に関する考え方について、活動や学びの内容によって役割や援助

Q5：協同的な活動や遊びにおける保育者の役割 =133

表5

カテゴリー	キーワード	記述例	度数	%
子ども理解	共感、認める、見守る、受け止める	保育者は見守りそれを認めることが大切でそれが保育者の役割だと思います。 ・子ども一人ひとりに合わせた支援を行う。 ・子どもの姿を受け止めること。 ・一人ひとりの個性を受け止め配慮すること。 ・子どもの気持ちやイメージに寄り添う。 ・子どもと一緒に考えて活動を進めていくこと。	64	28.7
直接的な援助	手助け、助言、声をかける、手を差し伸べる	・トラブル時に代弁すること。 ・活動が活発になるようにアドバイスをしたり相談に乗ったりすること。 ・子どもが言葉にできない部分を察して伝える役割。 ・子どもの代弁者になる。 ・時には保育者が間に入って言葉を伝えあう。	84	37.7
子どもの発達を尊重	主体性、自己発揮、自己挑戦、人間関係	・子どもの主体性を大事にすすめること。 ・誰もが個性を出しつつ自己発揮と自己抑制があるように環境を構成する。 ・子どもの年齢や現状にあった遊びを設定すること。 ・子ども主体で考えること。	61	27.4
環境構成	整える、用意する、安全な環境を保障	・道具や環境を整える。 ・子ども同士の関わりを大切にするために環境を整えること。 ・適切な活動の場を設ける。 ・必要に応じて言葉かけを行ったり環境を用意する。	20	8.7



協同的な活動に関する一考察

表6

Q 2					Q 5							
	カテゴリー1	カテゴリー2	カテゴリー3	カテゴリー4	合致	一部合致している	合致しない	カテゴリー1	カテゴリー2	カテゴリー3	カテゴリー4	
	子どもを理解(共感・認める・見守る・受け止める)	直接的な援助(手助けする・助言する・声をかける・手を差し伸べる)	子どもの発達を尊重(主体性・自己発揮・自己挑戦・人間関係)	環境を構成(整える・用意する・安全な環境を保障する)							子どもを理解(共感・認める・見守る・受け止める)	直接的な援助(手助けする・助言する・声をかける・手を差し伸べる)
合計	41	90	38	63	17	69	42	64	84	61	20	
%	17.7%	38.8%	16.4%	27.2%	13.3%	53.9%	32.8%	28%	37%	27%	9%	

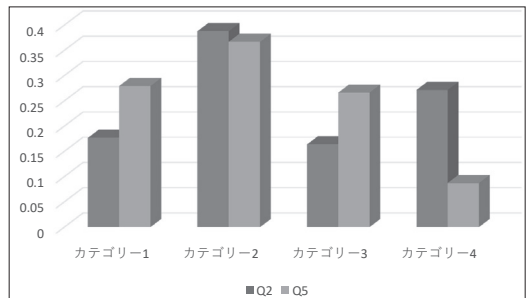
は異なるとの認識をもっていることが見えてきた。

表7

保育者の役割に関する考え方について、Q 2「遊びにおける保育者の役割」とQ 5「協同的な活動における保育者の役割」をどのように考えているのかアンケート結果を質的に分析したものの、Q 2「遊びにおける保育者の役割」は遊びにおける保育者の役割についての考えを、Q 5「協同的な活動における保育者の役割」は、「遊び」の中でも「協同的」という限定した遊びにおける保育者の役割についての考え方を問うたものである。遊びという広義的な内容における保育者の役割と遊びの中でも「協同的」という限定した遊びにおける保育者の役割について学生はどのように捉えているのか。「遊び」と「協同的な遊び」における学生の考え方の傾向を下記の表にまとめた。(表6)(表7)(表8)。

	カテゴリー1	カテゴリー2	カテゴリー3	カテゴリー4
Q 2	17.7%	38.8%	16.4%	27.2%
Q 5	27.9%	36.7%	26.6%	8.7%

表8



保育者の役割について、学生一人ひとりに視点を向けて傾向を見ると、「遊び」と「協同的な遊び」においての役割が一致している学生は13.3%、一部合致している学生は53.9%、合致しない学生は32.8%であった。一部合致している、および合致しない学生を合わせると86.7%におよぶことがわかった。

保育者の役割と考える学生は、「遊び」における保育者の役割より「協同的な遊び」における保育者の役割においてより大切だと考える割合は、10%ほど高くなる傾向があることがわかった。

これは遊びや活動の内容によって保育者の役割は変化すると考える傾向があることがわかった。次にカテゴリー別(1,2,3,4)に見ていく(表6、表7)と、気持ちに寄り添うこと、共感すること、受け止める「子ども理解」することを

「直接的な援助」について、保育者の役割に開きはなく一定に高い割合を示した。「子どもの発達を尊重」については、子ども理解同様、「協同的な遊びや活動」における保育者の役割においてより大切だと考える割合は約10%ほど高くなる傾向があることがわかった。環境を整えること、用意すること、安全な環境を保障する「環境構成」について、協同的な遊びや活動につい

てより大切だと考える割合は16.3%低くなる傾向があることがわかった。協同的な遊びや活動という内容や言葉から保育者とのかかわりやコミュニケーションというイメージが先行すること、また他者とのかかわりから様々な問題に直面することも事実であり、この他者とのかかわりや人間関係から生じる葛藤経験が協同的な活動や遊びからの学びの多くを占めているという印象が強い。環境に着目し、環境を構成することより協同的な活動からイメージされる言葉に影響されていることからこのような結果になったと想定できる。他者とのかかわりから気づき、考えることを通して学びにつながること、気づきのきっかけには他者の存在があること、環境からの学びより他者からの学びの方が学生には大きく映っていることも考えられる。また学生の意識についても劇遊びを通して、子どもの育ちを見ようとする意識が生まれ総合的に保育をすることに視点を向けようとしている。「劇遊び」を学生自身が実践する中で、人間関係の形成の重要性に気付き、チームワークを基に実践に向け、学びを重ねていく姿が見られる。

学生が考える保育者の役割について、遊びの内容によって保育者の役割は変わると捉えており、状況に応じた援助を実践すること、また子ども一人ひとりを理解し個々に応じた援助を実践するように遊びの内容に応じた役割があると理解していることがわかった。

最後に幼児教育は、環境を通じた教育であることを踏まえ、人的環境としての保育者の役割を掘り下げてもう一度保育環境について学びの機会を得たいと考えている。

#### 引用・参考文献

1) 小原敏郎、入江礼子他 (2013), 「保育者の保育観に関する研究—保育経験年数、保育所・幼稚園の違いに着目して—」, 『保育士養成研

究』, 第31号, pp57-66

2) 増田まゆみ、小櫃智子 (2014), 「保育者の成長を支える子ども観・保育観の変容—実習生との保育の省察の一事例から—」, 『日本児童学会研究論文』, pp 3-13

3) 保木井啓史 (2015), 「幼児の協同的な活動はどのように成立しているか—メンターシップの概念による分析—」, 『保育学研究』, 第53巻第3号, pp21-32

4) 伊藤茂美、嶋守さやか、上村晶 (2020), 「幼児期における主体的・対話的で深い学びに関する一考察—幼児期の教育における見方・考え方との関連性から—」, 『桜花学園大学保育学研究紀要』, 第21号, pp157-177

5) 松本和美、松田聖子 (2019), 「幼稚園における協同的な学び—子どもの思いを文字化する—」, 『鶴見大学紀要』, 第3部, pp59-64

6) 佐藤康富 (2009), 「幼児期の協同性における目的の生成と共有の過程」, 『保育学研究』, 第47巻第2号, pp39-48

7) 齋藤久美子、無藤隆 (2009), 「幼稚園5歳児クラスにおける協同的な活動の分析—保育者の支援を中心に—」, 『湖北紀要』, 第30号, pp 1-13

8) 利根川彰博 (2016), 「協同的な活動としての『劇づくり』における対話—幼稚園5歳児クラスの劇『エルマーのぼうけん』の事例的検討—」, 『保育学研究』, 第54号第2号, pp49-60

9) 井口眞実、井上宏子、山下晶子 (2019), 「実習生を指導する経験が保育者自身の保育の質向上に与える効果—幼稚園・保育園実習において大学が果たすべき役割を探る—」, 『実践女子大学 生活科学部紀要』, 第56号, pp051-059

10) 福元真由美 (2014), 「幼小接続カリキュラムの動向と課題—教育政策における2つのアプローチ—」, 『教育学研究』, 第81巻, 第4号, pp14-25